

## 第六回卒業証書授与式式辞

寒さに耐えてきた梅のつぼみもようやく膨らみ始め、朝夕の日の光も長くなり、確実に春の訪れを感じる季節となつてまいりました。この佳き日に、大阪府立緑風冠高等学校第六回卒業証書授与式を挙げていただけますことを、大変うれしく存じます。卒業生の皆さん、保護者の皆様、本日はおめでとうございます。

また、大阪府教育委員会ご代表、宇野木邦治様、大阪府議会議員、澤田貞良様、大阪府議会議員、内海久子様、大東市教育委員会ご代表、澤辺正人様、大東市立8中学の校長先生方をはじめ、本当に多数のご来賓の皆様には、公私ご多用の中、ご臨席賜り、誠にありがとうございます。高いところからではございますが、厚くお礼申し上げます。

卒業生の皆さん、改めましてご卒業おめでとうございます。卒業証書授与の際、担任の先生から名前を呼ばれたときの皆さんは、とてもいい表情をしていました。さて初めに、皆さんに伝えたいことがあります。それは、「ありがとう、6期生」ということです。思えば、私が緑風冠に来たのは3年前。皆さんと同じです。私の緑風冠での3年間は、皆さんとともに歩んできました。皆さんは、優しく、そして、温かな笑顔と元気な挨拶が素敵でした。そんな皆さんに出会えて良かったという感謝の思いが常にありました。

今、皆さんが手にした卒業証書は、一人ひとりのたゆまぬ努力があったからです。しかしこの努力というものは、継続するのに大変なエネルギーが必要です。特に学び続ける努力は、今まで、高校生であるという見えない力に支えられることにより継続できました。卒業により高校生という枠が外れて、皆さんの自由度が広がります。自由になった分だけ、学び続けるためには大きなエネルギーと強い意志が必要となります。そこで、学び続けるということを「良き習慣」にまで高めて欲しいのです。ギリシャの哲学者アリストテレスは「我々は、繰り返す行動の総計である。優秀さは、単発の行動ではなく習慣である。」と述べています。繰り返し、繰り返し行うことの積み重ねが人格であり、常に学び続ける良き習慣こそが優秀さとなるということだと思います。常に学び続けるということが生活の流れの中で自然に継続できるよう、皆さんの良き習慣としてください。4月からの新しい環境では、戸惑うこともあると思います。そんな時、わかっているかのようにふるまったり、教えてもらうのを待たずしてはいけません。新人なんだから、新入生なんだから、わからなくて当然です。どんなことにも関心を持って、何でも吸収し、学びましょう。

また、新しい出会いで、信頼関係を築くために、心なごませる、つまり、自分の心を周囲の人の心の中に溶け込ませてみましょう。自分から人を受け入れてみましょう。現代は、自己主張や、我を張ることが多く、ぎくしゃくすることもあります。人の欠点を見つけて批判ばかりしてはいけません。「世の中には完成された人というのはいない。お互い、いろいろあるだろう。」と述べて、時には受け入れる気持ちも必要です。縁あって一緒になってやっていくのだから、相手の足りない点は注意したり、補ったりしてこそ仲睦まじい関係が生まれます。よくいわれるグローバルリーダーに一番必要な資質は、英語が話せることではなく、相手を思いやる心を持っていることだと思います。

先日、ソチでの冬季オリンピックが閉幕しました。連日、熱戦が繰り広げられ、長年にわたる練習により、メダルや入賞などの結果を出した人もいれば、そうでない人もいました。その中で私が一番印象に残っているのが、多くの選手が、結果の有無にかかわらず、試合後のインタビューで、今まで支えてくれた人たち、応援してくれた人たちへの感謝の気持ちを述べていたことです。皆さんも多くの人の支えや応援で、本日の卒業を迎えることができました。そのことへの感謝の気持ちを忘れずに、今度は多くの人を支え、応援する人にもなってください。

最後になりましたが、保護者の皆様、立派に成長されましたお子さまのご卒業を心よりお祝い申し上げます。お預かりしておりました大切なお子さまを、本日無事、お返しすることができ、これに勝る喜びはございません。この間、本校の教育活動に多大なご支援、ご協力、ご理解を賜り、誠にありがとうございました。今後とも緑風冠高等学校をご支援いただきますよう、お願い申し上げます。

卒業生の皆さんは、校歌に歌われているとおり、これから新たな未来にはばたいていきますが、時にはこの緑風冠高等学校に羽を休めに来てください。私たちも、皆さんに「緑風冠高校出身です」と誇りを持って言ってもらえるよう、取り組んでいきますので、緑風冠高校のことを、いつまでも見守っててください。

かくて卒業生の皆さんの前途が洋々たるものとなり、幸多かれと祈念して、私の饞の言葉といたします。

平成二十六年二月二十八日  
大阪府立緑風冠高等学校長 松本 透